

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900678	事業の開始年月日	平成10年1月1日	
		指定年月日	平成12年3月1日	
法人名	有限会社 ライフサポートいずみ			
事業所名	グループホームいずみ			
所在地	(238-0032) 神奈川県横須賀市平作8-20-20			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成22年12月	評価結果 市町村受理日	平成23年4月18日	
定員等		ユニット数	2ユニット	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H22年3月に移転し、非常に恵まれた環境で再スタートしました。地域の方との交流も深く、町内会長、副会長、民生委員が運営推進委員に参加していただいています。開設当初より看護師が2名おり、利用者のご家族の希望を生かした看取りケアを実践し今年度も1名看取っています。コミュニケーションの大切さを重視し、管理者はバリデーションワーカーの資格を取り、H22年8月より全職員にホーム内研修を実施。神奈川県からの依頼を受け、実践者研修、実践リーダー研修などの受け入れを実施。他に神奈川県立保健福祉大学からの実習生の受け入れや某機関からのヘルパー実習の受け入れも行い、互いに学びあっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年1月25日	評価機関 評価決定日	平成23年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】
 当事業所はJR横浜線衣笠駅または京浜急行線汐入駅からバスで約10分の住宅地に立地している。開所は平成10年で、平成22年3月に当地に新築移転した。事業所の理念を平成21年に1月に見直し、「自由に気ままに過ごし」「認知症の専門的ケア」「心身の異常を早く見つけること」とした。これらの理念を根底に置いて、毎月「あなたも私もあるがままに」などの介護目標を職員が順番に作成し、利用者本位の手厚い介護・看護に当たっている。

【認知症ケアの専門士とバリデーション・ワーカー】
 運営法人の代表者は看護師であり、介護現場の実践面の指導を行い、実習生を受け入れている。認知症ケアの専門士としても、介護事業の人材育成に活躍している。特に認知症の方との会話やしぐさから思いを把握をするバリデーションについても造詣が深い。

【身体拘束の県のモデル施設】
 事業所は平成21年11月に県の身体拘束廃止モデル施設となり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組んでいる。

【医療連携とターミナルケア】
 事業所は医療連携体制をとり、安心して医療を受診できる体制にある。可能な限り事業所で介護をする方針であり、ターミナルケアの指針を作成し、医師と家族とも協力して実践している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づきスタッフが毎月の介護目標を立て朝申し送り時に確認しあい意識している。	理念は平成21年1月に見直し、家族、利用者、職員の思いを込めて「自由で気ままな暮らし」とし、事務室などに掲示している。入職時の研修、ミニカンファレンスの中で共有し、実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事夏祭り、運動会に参加したり、ホームではバザーを行い地域の方々が訪問している。また、ホームでの音楽療法に参加されたりと交流がある。町内からボランティアがふえている。	自治会に加入し、地域の夏祭り、盆踊り、お神輿を見物し交流を深めている。地元の小学校の運動会には招待席を設けてもらい、家族会主催のバザーには家族・地域の方が参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者や外部講師で認知症の研修会を行う。問い合わせ、見学者、家族の悩み相談をうけている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行い会議はホーム内での行事に参加、利用者と交流していただき意見交換をしケアに生かしている。認知症の学習会を行っている。	2ヶ月毎に定期的開催している。会議では事業所の取り組みや行事の報告をし、メンバーである大学教授の「認知症に関する講演会」を聴講し、利用者と昼食を共にし、地域の理解と支援を得ている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のGH協議会に加入し会議には市の担当者も参加し意見交換をしている。折りに触れ相談、指導いただいている。運営推進会議に市から参加している。	管理者は市のグループホーム協議会の顧問として、市内のグループホームの研修を担当している。市の長寿社会課の給付担当職員と運営面や業務上の問題点を話し合い、運営推進会議にも出席してもらっている。	

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみである。身体拘束廃止施設になっており、日々のケアで身体拘束について学習を重ね利用者の尊厳を守ることに努めている。	平成21年11月に身体拘束廃止モデル施設となり、職員、家族会、運営推進会議で学び、正しい理解に努めている。玄関の鍵は施錠せず、居室の鍵も本人に任せ、安全面に配慮し見守りに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年度より 県のモデル施設になっておりホーム内外の研修を多くしスタッフの意識改革に努めている。ホーム内でバリデーシヨンの研修会を毎月1回持っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市、県の外部の研修を受けホーム内で学習会を持っている。ホーム内で1月に実施予定である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族に書面で説明し承諾をえている。家族会で質問に応じたり、来所時 面談している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情の窓口を明示し家族がみてるわかるよう掲示している。年2回の家族会で意見、要望をいただきケアに生かしている	苦情や要望の担当窓口は契約時に説明している。運営推進会議や家族会、家族の来訪時には、生活の状況を話し、意見や要望を聞いて運営に反映している。家族会で「職員の氏名がわかるように」との要望があり、名札を着用するようにした。	

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで意見交換し要望を取り入れている。	毎朝のミニカンファレンスや月1回の全職員カンファレンスでは、職員の要望、意見を聞き業務に反映している。職員は、行事の企画・実行を行っているほか、職員の提案により、月1回お好みの出前を取ることにした。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数にたいして順次グレードアップの研修が受けられるよう配慮している。介護職員処遇改善交付金を申請し、取り入れ職員処遇改善に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を申請し導入した。ホーム内外の研修を充実させ人材育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	衣笠地区7事業所で複数事業所推進事業を行い、研修会やイベントを行っている。市内GHのスタッフ交流研修を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「その人のあるがまま」を受け入れる。感情に共感し苦しみや不安が安心と満足に変わるよう努めている。		

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の事前訪問から、家族が話しやすい環境づくりに配慮し面会時に必要に応じて面談をしている。夜の面会も制限していない。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら まず、本人や家族が何を求めているかをよく話を聞きながら見極めることが第一であり、その意向を大切に相談に応じている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に介護し、される関係であり人生の先輩として教えられ学ぶことが多い。一人ひとりの人柄に生きる姿勢を学ぶことが多い。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念に基づき誕生会や各種行事に参加していただき共に過ごしていただいている。町内の夏まつり盆踊りにも家族と参加している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が近くの方は自宅へ外出され、友人にあたり来訪もある。馴染みのスーパーに買い物に出かけている。	利用者は家族と行きつけの美容院へ行ったり、自宅へ行って洗濯物を取り込み換気をして戻ってくる方もいる。利用者の友人や知人の来訪があり、居室で歓談している。年賀状、手紙の返信をポストへ投函する支援を行っている。	

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに声を掛け合い共に感情を共感し支えあっている。Dルームの座席の配慮や会話が円滑になるよう努めている。共同で作業に取り組んでいる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母親をホームで看取りその後ボランティアとして、毎週来てくれている。ドライブ、紙芝居、買い物など。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何が得意で、何を希望されているのか、出来ること何か、利用者が輝いて充実して過ごせるよう常に探り利用者の持っている力を生かしていきたいと努めている。	職員は日常の行動や会話の中から意向や希望を汲み取り、把握し、共有に努めている。意向を伝えにくい方には、入浴時や夜間のゆったりとした時間、服薬時の職員と1対1の時に話を聞いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシート、医療やADL情報を通して全体像の把握に努めている。馴染みの品々や生活習慣を踏まえ環境の変化を最小限度にするよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何を望み何をしたいのか小さな変化に目を向けその意味を探るよう努力していくことが利用者の力を引き出すと考えている。		

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	症状や状況の変化に応じて、朝のショートカンファレンス。毎月のカンファレンスの事例検討、家族とも必要に応じて面談時に話し合い、3～6ヶ月で見直している。	利用者や家族の意向と医療情報シートやアセスメントで認知症の症状・ADL等を把握している。医師の所見を参酌し、カンファレンスを行い介護計画を作成している。利用者ごとの担当制となっている。通常は6ヶ月毎に見直し、現状に即したものとしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や日々の経過記録をベースに互いの情報を分析して実践に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の自宅訪問の同行。利用者の状況に合わせたドライブ。外食のお取り寄せを月一度程度実施している。積極的な有償ボランティアの導入。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる、紙芝居、ドライブなどの外出が行われている。絵画、習字教室、音楽療法もおこなっている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人のかかりつけ医、ホームの提携訪問診療医、地域の病院など病状に応じて判断し速やかに受診に繋げている。	本人や家族の希望により、かかりつけ医を継続して受診できるように支援している。家族に代わって職員が通院に付き添う場合もある。受診結果は個人別に記録して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者が看護師であり、常勤者にも看護師があり24時間スタッフ間の連携を密にして利用者の安全に留意している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時から、積極的に主治医と面談し、家族の意向を踏まえながら早期退院に向けて相談している。入院中は職員が訪問し馴染みの関係を保ち認知症の進行予防に努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「終末期の希望書」「安らかな看取りのために」など一連の指針があり、本人、家族を中心に捉えたターミナルケアを実践している。22年は1名の看取りを行った。</p>	<p>ターミナルケアを行う方針であり、事業所の指針をできるだけ早い時期に家族に説明して同意を得ている。平成21年に3人、22年は1名の方を看取った。22年3月に職員研修を実施している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応はカンファレンスで学習したり、外部研修およびホーム内研修で研鑽している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホームはスプリンクラーが設備されている。消防署への直接、通報器がついている。防災訓練は年2回実施し、訓練時には消防署も参加し指導を受けている。</p>	<p>防災・避難訓練は年2回消防署の指導を得て、初期消火・誘導を実施している。訓練結果は運営推進会議・家族会で報告している。スプリンクラーは設置済みであり、食料・飲料水は備蓄している。</p>	<p>運営推進会議や家族会、自治会を通じて、地域との協力体制について積極的に働きかけることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	県の指針に基づき当ホームの「個人情報保護法」がありプライバシーや個人の尊厳保持に努めている。真の尊厳とは何かを考え続けている。毎月のカンファレンスで事例検討をし深めている。	職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。日頃よりプライバシーを損ねることのないように言葉づかいに配慮している。礼儀作法や心を込めたマナーを基本とし、食事中はテレビを付けたりせず、食事に専念するようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人その人にあった考え、自己決定できる場面を多く作り取り入れている。「待つこと」の大切さを合意している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、利用者のペースを守りその人がその人らしく暮らせるよう支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣や外出時好みの衣服を選んでいる。理髪も定期的にうけたり、歩行が可能な方は美容室に出かけている。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を生かせるよう、一人ひとりにあった台所仕事などスタッフともにおこなっている。献立に好みや力が反映されるよう話題提供をしている。	利用者は力量に応じて食器拭きや下膳を行っている。職員は、利用者と一緒に食事をしている。食事の好みは日々の会話の中で聞いている。誕生会には利用者の好みのメニューとケーキを提供している。		

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量が減少している時は食事摂取量をチェックしその人にあった捕食をしている。好みの物を用意したり嚥下状態により調理を工夫している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後歯磨き励行している。その人の自立に合わせて見守り、一部介助、介助と誤嚥性肺炎などの感染予防に努めている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個別の排泄パターンに合わせ見守り誘導し、気持ち良い排泄が出来るよう実践している。</p>	<p>健康チェック表に排泄の時間を記録して排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。誘導する時は、トイレという言葉を使わず、「お待たせいたしました」と声かけるなど工夫をしている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>朝食に毎日ヨーグルトをつけている。個別の排泄に合わせて早朝の牛乳、プルーンなど食事で工夫している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一応、曜日の設定はあるが、希望、本人の意志を優先し入りたい時に入る等個々の状況に合わせて気持ち良く入れる工夫をしている。毎日午後に入浴している利用者もいる。</p>	<p>入浴は原則週2~3回だが、希望があれば、心身状態を考慮して毎日入浴することもできる。入浴をしたがらない方には、無理強いせず、時間をあけたり、別の職員が対応するなどの工夫をしている。また、特定の職員だけでなく複数の職員が関わるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にありのままに暮らせる環境を基本としている。使い慣れた、または好みのベッド、寝具を使用している。室温、湿度計を置き適温適湿に留意している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬剤の効用書はいつでも見られるようファイル化されている。新しく服用する薬の諸注意についての観察事項は伝達、共通の理解としている。必要に応じて介護計画に明記している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意な物、好みのもの、興味のあるものを見だし、日々の生活の喜びと楽しさがあることを第一に考えている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望で自宅が近くの方は自宅へ外出されている。馴染みのスーパーに買い物に出かけている。	利用者は天候や体調、希望に応じて散歩に出ている。車いすの方も近くの公園へ出掛けている。近所のお寺を散策したり、職員と一緒にスーパーマーケットへ食材や日用品の買い物に出掛けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	美容院や買い物時の支払い、またはイベント時にバザー、夏祭り時に自由に買い物、支払いをしている。		

自己評価	外部評価	1 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の電話は自由であり家族からの電話にも制限なく話されている。手紙のやりとりもある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り、作品と季節感が感じられるように工夫している。玄関、居間などに花を飾り居心地よい空間作り、光、温度にも気を配っている。	共用空間はゆったりとして、明るく清潔で、床下暖房となっている。テーブルとイスは特注品で、特にテーブルは組み合わせて形を変えることが出来る。玄関や居間には花を飾り、換気や温・湿度にも配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの大きさ、配置を工夫し、ソファなども置き、馴染み人が過ごせる空間がある。小さいがベランダ空間もある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の好み物や作品が置かれている。使い慣れた馴染みのベット、家具が置かれている。カーテンや絨毯も本人と家族が相談し用意された物である。	居室には使い慣れた調度品を置き、家族の写真や仏壇を飾り、床に畳を敷くなどして個性のある居心地よく過ごせる部屋になっている。職員と一緒に居室を掃除する方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前、トイレ、浴室の掲示をしている。居間や居室にカレンダーの設置をしている。日々の生活に個々の能力、得意とする作業を取り入れ共に行動し達成感が味わえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づきスタッフが毎月の介護目標を立て朝申し送り時に確認しあい意識している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事夏祭り、運動会に参加したり、ホームではバザーを行い地域の方々が訪問している。また ホームでの音楽療法に参加されたりと交流がある。町内からボランティアがふえている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者や外部講師で認知症の研修会を行う。 問い合わせ、見学者 家族の悩み相談をうけている		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行い会議はホーム内での行事に参加、利用者と交流していただき意見交換をしケアに生かしている。認知症の学習会を行っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のGH協議会に加入し会議には市の担当者も参加し意見交換をしている。折りに触れ相談、指導いただいている。運営推進会議に市から参加している。		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠は夜間のみである。身体拘束廃止施設になっており、日々のケアで身体拘束について学習を重ね利用者の尊厳を守ることに努めている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>昨年度より 県のモデル施設になっておりホーム内外の研修を多くしスタッフの意識改革に努めている。ホーム内でバリテーションの研修会を毎月1回持っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市、県の外部の研修を受けホーム内で学習会を持っている。ホーム内で1月に実施予定である。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時家族に書面で説明し承諾をえている。家族会で質問に応じたり、来所時 面談している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満、苦情の窓口を明示し家族がみてわかるよう掲示している。年2回の家族会で意見、要望をいただきケアに生かしている</p>		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで意見交換し要望を取り入れている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数にたいして順次グレードアップの研修が受けられるよう配慮している。 介護職員処遇改善交付金を申請し、取り入れ職員処遇改善に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を申請し導入ホーム内外の研修を充実させ人材育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	衣笠地区7事業所で複数事業所推進事業行い、研修会やイベントを行っている。市内GHのスタッフ交流研修を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「その人のあるがまま」を受け入れる。感情に共感し苦しみや不安が安心と満足に変わるよう努めている。		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時の事前訪問から、家族が話しやすい環境づくりに配慮し面会時に必要に応じて面談をしている。夜の面会も制限していない。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたら まず、本人や家族が何を求めているかをよく話を聞きながら見極めることが第一であり、その意向を大切に相談に応じている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常に介護し、される関係であり人生の先輩として教えられ学ぶことが多い。一人ひとりの人柄に生きる姿勢を学ぶことが多い。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホームの理念に基づき誕生会や各種行事に参加していただき共に過ごしていただいている。町内の夏まつり盆踊りにも家族と参加している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>自宅が近くの方は自宅へ外出され、友人にあったり来訪もある。馴染みのスーパーに買い物に出かけている。</p>		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに声を掛け合い共に感情を共感し支えあっている。Dルームの座席の配慮や会話が円滑になるよう努めている。共同で作業に取り組んでいる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者がいない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何が得意で、何を希望されているのか、出来ること何か利用者輝いて充実して過ごせるよう常に探り利用者の持っている力を生かして生きたいと努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシート、医療やADL情報とうして全体像の把握に努めている。馴染みの品々や生活習慣を踏まえ環境の変化を最小限度にするよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何を望み何をしたいのか小さな変化に目を向けその意味を探るよう努力していくことが利用者の力を引き出すと考えている。		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>症状や状況の変化に応じて、朝のショートカンハアレンス。毎月のカンハアレンスの事例検討、家族とも必要に応じて面談話し合い、3～6ヶ月で見直している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>健康チェック表や日々の経過記録をベースに互いの情報を分析して実践に反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の自宅訪問の同行。利用者の状況に合わせたドライブ。外食のお取り寄せを月一度程度実施している。積極的な有償ボランティアの導入。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアによる、紙芝居、ドライブなどの外出が行われている。絵画、習字教室、音楽療法もおこなっている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個人のかかりつけ医、ホームの提携訪問診療医、地域の病院など病状に応じて判断し速やかに受診に繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者が看護師であり、常勤者にも看護師があり24時間スタッフ間の連携を密にして利用者の安全に留意している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時から、積極的に主治医と面談し、家族の意向を踏まえながら早期退院に向けて相談している。入院中は職員が訪問し馴染みの関係を保ち認知症の進行予防に努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「終末期の希望書」「安らかな看取りのために」など一連の指針があり、本人、家族を中心に捉えたターミナルケアを実践している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応はカンファレンスで学習したり、外部研修およびホーム内研修で研鑽している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホームはスクプリンクラーが設備されている。消防署への直接、通報器がついている。防災訓練は年2回実施し、訓練時には消防署も参加し指導を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	県の指針に基づき当ホームの「個人情報保護法」がありプライバシーや個人の尊厳保持に努めている。真の尊厳とは何かを考え続けている。毎月のカンファレンスで事例検討をし深めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人その人にあった考え、自己決定できる場面を多く作り取り入れている。「待つこと」の大切さを合意している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、利用者のペースを守りその人がその人らしく暮らせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣や外出時好みの衣服を選んでいく。理髪も定期的うけたり、歩行が可能な方は美容室に出かけている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を生かせるよう、一人ひとりにあった台所仕事などスタッフとともにおこなっている。献立に好みや反映されるよう話題提供をしている。		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量が減少している時は食事摂取量をチェックしその人にあった捕食をしている。好みの物を用意したり嚥下状態により調理を工夫している。透析食を1名実施している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後歯磨き励行している。その人の自立に合わせて見守り、一部介助、介助と誤嚥性肺炎などの感染予防に努めている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個別の排泄パターンに合わせて見守り誘導し、気持ち良い排泄が出来るよう実践している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>朝食に毎日ヨーグルトをつけている。個別の排泄に合わせて早朝の牛乳、プルーンなど食事で工夫している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一応、曜日の設定はあるが、希望、本人の意志を優先し入りたい時に入ると個々の状況に合わせて気持ち良く入れる工夫をしている。毎日午後に入浴している利用者もいる。</p>		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にありのままに暮らせる環境を基本としている。使い慣れたまたは好みのベッド、寝具を使用している。室温、湿度計を置き適温適湿に留意している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬剤の効用書はいつでも見られるようファイル化されている。新しく服用する薬の諸注意についての観察事項は伝達、共通の理解としている。必要に応じて介護計画に明記している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意な物、好みもの、興味のあるを見だし日々の生活の喜びと楽しさがあることを第一に考えている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望で自宅が近くの方は自宅へ外出され。馴染みのスーパーに買い物に出かけている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	美容院や買い物時の支払い、またはイベント時にバザー、夏祭り時に自由に買い物、支払いをしている。		

自己評価	外部評価	2 階 項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の電話は自由であり家族からの電話にも制限なく話されている。手紙のやりとりもある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り、作品と季節感が感じられるように工夫している。玄関、居間などに花を飾り居心地よい空間作り、光、温度にも気を配っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの大きさ、配置を工夫しソファなども置き、馴染み人が過ごせる空間がある。小さいがベランダ空間もある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の好み物や作品が置かれている。使い慣れた馴染みのベット、家具が置かれている。カーテンや絨毯も本人と家族が相談し用意された物である。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前、トイレ、浴室の掲示をしている。居間や居室にカレンダーの設置をしている。日々の生活に個々の能力、得意とする作業を取り入れ共に行動し達成感が味わえるよう支援している。		